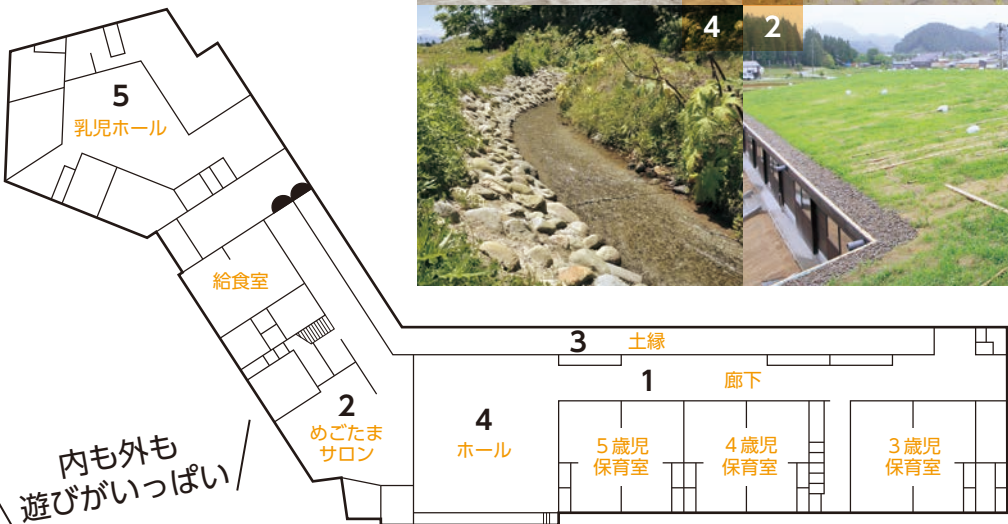


▼1_園の田んぼが目の前に。稲の成長を間近で観察できる。2_屋根の一部には草を植え付け。いずれは羊やポニーを放す予定。3_園庭にはミニ水路や柱など、わくわくする素材がいっぱい。4_園の周りの流れる水路もきれいに整備。



乳児棟は五角形を3つの保育室に分けており、どちらを向いても新鮮で、楽しい空間が広がる。全体を5本の柱が支えており、その中心は小さなホール。子どもたちの舞台としても活用していく。

園舎には金山杉をふんだんに使用。直径1mを超す金山杉をそのまま使った柱は圧倒的な存在感を放つ。ホールの梁なども含めて、新園舎建設にあたって樹齢200年の杉が7本伐り出された。



4



園舎と外をつなぐ土縁。園舎の庭側をめぐる構造となっており、乳児の保育室からも、幼児の保育室からも園庭に出ることが可能。「内でも外でもない」。そんな空間が子どもたちの遊び心をくすぐる。

園舎のど真ん中、正面玄関を入ってすぐのスペースに台所のある土間が設けられた。その名も「めぐたまサロン」。地域の方々が自由に集まり、子どもたちと交流する。そんな姿が目浮かぶ。



2



保育室と土縁の間の廊下。ホールから一番奥の幼児土間まで抜けているとても広いスペースだ。単なる通り道ではなく、備え付けの遊具で遊んだり、外へ出る準備をしたりと、使い方は自分次第。

特集

めぐたまのうち

町唯一の保育施設である認定こども園めぐたま。この7月、乳児部と幼児部で別々だった園舎がひとつになり、新園舎が誕生しました。就学前の多くの子どもたちが日中の大半を過ごす園舎。子どもたちの「うち」とも言える新園舎と、めぐたまの教育をひもときます。

めぐたま新園舎の誕生

「わあー」に登ってもいいの?」「この柱すごく大きい!」「廊下で追いかけてこしよう!」

7月3日、子どもたちの興奮に包まれながら、認定こども園めぐたまの新園舎が開園され、新たな生活がスタートしました。

平成23年4月、町立の保育園と私立の幼稚園が、人口減少にともない統合されてできた認定こども園めぐたま。運営はひとつになりましたが、乳児部(0〜2歳)と幼児部(3〜5歳)が別々の園舎となったままでした。その後約4年をかけ、子どもたちや保護者の皆さんの意見を取り入れながら、金山の土地に合った園舎づくりが進められました。

外とつながる園舎

新園舎で目を引くのが「土縁^{どえん}」。園舎の庭側に沿って設けられています。土縁とは昔から豪雪地帯に見られる雪対策の仕掛けで、新園舎の骨格となっています。この土縁が園舎と園庭をつなぎ、「外に近い」園舎を実現しています。

絵を描いたり、工作をしたり、はたまた外で畑仕事をしたりする幼児部のみならず、園内外は基地のようなもの。縦横無尽に遊びまわり、さまざまな活動をするために幼児部は比較的シンプルなつくりとなっています。保育室と土縁の間の廊下はとても広く、備え付けの家具のような遊具には子どもたちも興味深々。自分たち次第で色々な遊びが広がります。

一方、乳児部はとも変わった形。五角形を3つの保育室に分けているため、色々な空間が存在します。乳児のみならずは保育室で過ごす時間が長くなるため、楽しい空間となるよう、段差を利用したすべり台など様々な工夫がなされています。乳児棟全体は5本の太い柱が屋根を支えており、その中心は小さなホールとして発表会などでも利用していく予定です。

地域がひとつの家族

園舎のど真ん中、正面玄関を入ってすぐのスペースに、台所のある土間があります。その名も「めぐたまサロン」。子どもたちはもちろん、親、おじいちゃん・おばあちゃんなど地域みんなが家族のように集い、過ごす場所。郷土料理を作ったり、木工品を作ったり。「大きな家族」が次世代に知恵をつないでいく、そんな地域の核となるように願いが込められています。



乳児部長
小野 テル子さん

『まずは愛着形成から』

乳児保育には、まず愛着形成が必要。子どもたちと先生との信頼関係を構築することで、自分から思いを伝え、進んで行動することのできる子に育ちます。時間はかかりますが、毎日声がけをし、常に笑顔で接するように心がけています。

乳児部のみんなにとって、新園舎は遊ぶところがたくさん。自主性を重んじながらも、子どもたちの経験を見守っていききたいと思います。



副園長
松田 真喜子さん

『新園舎は自分たち次第』

「失敗が子どもたちの成長につながる」が幼児部の考え方。先生はすぐには手を出さず、タイミングを見計らって最低限の助言をするようにしています。そうすることで、自分たちで解決しながら前に進む力を養っています。

新園舎はまだまだ何もない状態。先生たちが方向性を示しながらも、子どもたち自身が創意工夫をして、自分たちだけの園を創りあげることが目標です。



めごたま会会長
佐藤 英樹さん

『積極的に保護者の関わりを』

新園舎では、保護者が積極的に園づくりに関わっていくという方針。例えば、お遊戯会での衣装の再利用など、アイデア次第で、園と子どもたちの未来は広がっていくと考えます。

野山での保育は危険が伴いますが、多少のケガはOK。やってみなければ分からないこともあります。家庭でも、できるだけ外に連れ出して触れ合うことが大事だと思っています。



星川 建築 棟梁
星川 敏廣さん

『職人の技術と魂の結晶』

建設工事施工者の星川建設(株)と協力して、建築全般に携わりました。こだわりは、何ととっても材料が金山産の無垢材だということ。子どもたちが、金山杉の木目や節を見ながら、育っていくことは本当に嬉しく思います。

新園舎ができるまで



④伐り出された金山杉は、柱・梁用などに製材された。



③建材用に樹齢200年を超える金山杉を7本伐採。



②建設地となった荒屋地区。園敷地面積は8,400㎡。



①建設に至るまで、繰り返し行われた打ち合わせ。



⑧園庭・外構工事が完了し、ついに7月に開園。



⑦建設工事は冬期間も休まず続けられた。



⑥上棟式には保護者や子どもたちも参加した。

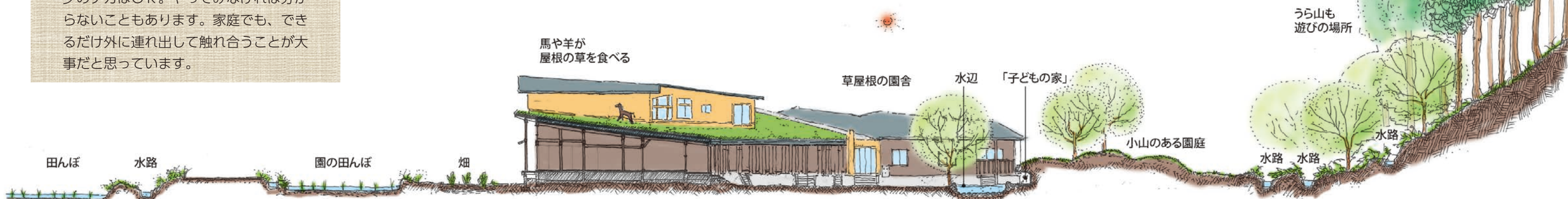


⑤造成工事を経て、昨年6月から始まった建設工事。

新園舎のあれこれ

旧金山保育園の創立年	昭和29年 8月
旧めばえ幼稚園の創立年	昭和51年 4月
認定こども園めごたま創立年	平成23年 4月
現在の職員数（6月1日時点）	36名
現在の園児数（6月1日時点）	147名
新園舎建設総工費	用地取得 1,130万円
	造成工事 3,700万円
	建設工事 45,100万円
	園庭・外構工事 3,100万円
	設計・監理 3,640万円
	総工費 56,670万円

新園舎各面積	園敷地面積 8,400㎡
	原野山林面積 66,154㎡
	園舎床面積 1,203㎡
	車庫面積 108㎡
	野外園庭面積 807㎡



14:20 14:00 12:00 11:00 9:30

『おかえりの会』 『おやつ』 『自由時間』 『給食』 『登園・活動』

先生と一緒にその日の振り返りを行います。良いことも悪いこともみんなで共有。会が終われば15時から帰りのバスが出ます。

いっぱい遊んだあとは休憩タイム。美味しいおやつを食べて、元気をチャージします。お家に帰ってからもういっぱい遊ぶぞ！

しばしの間、自由時間。お友達とお絵描きしたり、裏山で遊んだり、動物たちの世話をしたり。過ごし方は本当に人それぞれです。

11時30分までは、お待ちかねの給食の時間。金山の食材を使った安全で美味しい給食。みんな残さずペロリと平らげます。

早い子で7時半から登園が始まり、9時半にはみんな揃います。登園した子から、お店屋さん準備などそれぞれの活動を行います。

※時期や日によっても異なります

めごたまの一日
幼児部編



認定こども園めごたま
園長 井上 亘 さん

「環境教育」「幼児教育」「食農教育」が、保育の3本柱。金山に広がる自然環境を活かさない手はありません。春には泥んこになりながら、みんなでお米を収穫。自分で植えた米を食べるのは命の体験、とても大きな意味があります。冬になると積もる雪は遊びの資源。子どもたちは勝手に体が動き出し、外で遊んでいます。園内の動物たちも大切な友達です。動物たちとの言葉によらないコミュニケーションは、とても重要なことです。また、体験ばかりでなく暮らしそのものを子ども達自身が話し合っ作りに上げていくプロセスを大切にしています。

金山だからできること

里山の暮らしと新園舎

新園舎に求めたのは金山らしい「里山の暮らし」。土縁を取り入れ、内と外の境界をあいまいにしているのがポイントです。さらに敷地内に田んぼと畑を設け、園の北側には6ヘクタールの裏山が広がっています。金山杉をふんだんに使ったことや、新ボイラーを導入したことは「地域内循環」を意識していることです。新園舎はまだまっさら。園庭や裏山の整備もこれからです。保護者の皆さんには全面的に協力をいただくほか、地域の方々を巻き込んだ園づくりを目指します。

そうするのにも「大人が協力する姿」を子どもたちに見せたいから。そして「大人同士の関係」を作りたいからです。お父さん、お母さん、そしておじいちゃん、おばあちゃんがいっしょに汗を流し、助け合う姿は里山の原風景そのものの。新園舎となっても、「金山だからできること」を大切に子どもたちと関わっていきたいと思っています。

めばえの森は
プレーパークとして生まれ変わりました！

めごたま学童クラブ



- ▼対象
放課後、家庭で過ごすことのできない小学生
- ▼利用料
放課後 500円/1回
(上限3,000円/月)
長期休み期間 1,000円/1日
(上限7,000円/月)
おやつ代 100円/1回
(上限700円/月)
- ▼利用時間
7:30~18:30
- ▼内容
めごたまの森(幼児部旧園舎内外)の開放
- ▼その他
登録制のため、保護者の了解が必要。
放課後各自登園し、帰りは保護者の迎え。

めごたまプレーパークって？

全ての小中学生を対象に「めごたまプレーパーク」として、めばえの森を開放しています。ゲーム類の持ち込みを禁止している点は学童クラブと同じ。しかし、放課後に一度お家に帰ってから来ることや出欠をとらないことなどは学童クラブと異なっています。

要するに「自己責任」の中で、思いっきり野山で遊んでほしいというのがプレーパークの狙い。「ここまでは良いけど、そこからはダメ」。そんな自らの判断が子どもたちを成長させます。

金山の子どもたちにとっての「遊びの拠点」を目指します。



旧園舎(めばえの森)の活用方法

放課後デイサービス
セラピーファームめごたま



- ▼対象
障がいや生きることの困難を抱えた小学生~高校生
- ▼利用料
町の規定による
- ▼利用時間
8:00~18:00
- ▼内容
「セッション型」 ホースセラピー中心
「預かり型」 放課後の居場所として
2つのスタイルでサポート。個別支援計画を立てて牧場体験や乗馬療法などのカリキュラムから、ひとりずつのプログラムとして提供。
- ▼その他
登録制であり、町の認定が必要。
放課後学校までの迎えあり、帰りは保護者の迎え。

ホースセラピーは肉体と精神の両面で効果を発揮します。ひとりで歩けるようになった肢体不自由の子を何人も見てきました。

まずは、馬と友達になることを第1の目標として、「①餌をあげる②触って声をかけてみる③散歩させてみる」の3ステップから始めます。いつもはケアされる側のお子さんにとって、「誰かに何かをしてあげる」という経験がとても大事。自尊心を育てるとともに、言葉や発音、馬との交流がコミュニケーション能力を高めます。

馬はとても大きな命。馬を連れて歩くときに、子どもたちは目に見えないつながりを実感でき、それは大きな自信となるのです。



ホースセラピスト
寄田 勝彦 さん